

リゾート地行動の能動性に関する基礎的研究

西山 孝樹¹・佐藤 友梨²・天野 光一³

¹正会員 日本大学准教授 理工学部まちづくり工学科 (〒101-8308 東京都千代田区神田駿河台 1-8-14)

E-mail: nishiyama.takaki@nihon-u.ac.jp (Corresponding Author)

²非会員 墨田区役所 (〒130-8640 東京都墨田区吾妻橋 1-23-20)

E-mail: csyr19049@g.nihon-u.ac.jp

³フェロー会員 日本大学特任教授 理工学部まちづくり工学科 (〒101-8308 東京都千代田区神田駿河台 1-8-14)

E-mail: amano.kouichi@nihon-u.ac.jp

本研究では、リゾート発祥のヨーロッパに本社を構える株式会社クラブメッドが運営する 2 施設を対象とした。そして、トリップアドバイザーへ投稿された口コミからリゾート地行動に関する記述のある投稿を抽出し、それらを学生の学習到達状況を評価するための評価基準であるルーブリック表を用いて分類を行った。その結果、北海道トマムよりもタイプケットの方が自ら選んで何もしない行動の種類が多く、リゾート誕生時の保養や社交の場に近い行動がみられた。また、それらの行動は人との交流と自然環境を利用した施設に分類されることが多く、かつ能動的な行動に当てはまりやすいことがわかった。

Key Words: resort, activeness, word of mouth, rubric

1. はじめに

リゾート「Resort」は、古フランス語の「resortir」が語源で「足繁く通う」という意味を持ち合わせている。その「リゾート」の発祥はヨーロッパにあるとされ、医学的に望ましい温泉地と海浜からリゾートが発生した。中世末期には、一部の特権階級、貴族のあいだで、気候条件の厳しいヨーロッパからの避暑、避寒などの行為が風習化した。第一次世界大戦以降では社会革命により、大衆に浸透していき、リゾートが一般市民へと広がっていったとされる。

一方、わが国におけるリゾートに目を向けてみると、バブル景気に沸いた 1980 年代に入ると、国民の自由時間の増大や生活様式の多様化に伴い、国民の誰もが利用できる広域的な総合保養地域の整備が叫ばれるようになった。そして、1987 (昭和 62) 年には総合保養地域整備法、いわゆるリゾート法が制定された。しかしながら、バブル崩壊による景気後退がみられ、社会経済情勢が大きく変化した。そのことも一因となり、先述の法律が施行された後に開発が計画され、押し進められた関係施設の多くが経営悪化等の問題を抱えた。さらに、手探り状態で余暇施設等の整備が始められたこともあり、現在でも日本におけるリゾートの概念が未だに定着していない

と考えられる。

2. 日本と欧米 4 ヶ国の休暇旅行形態の比較

1988 (昭和 63) 年の資料²⁾とはなるが、わが国と欧米 4 ヶ国の年間平均宿泊日数を図-1 に示した^{2,3)}。わが国の年間平均宿泊日数が 3.4 日に対して、1 章でも述べたリゾートの発祥とされているヨーロッパの中でも、フランスの年間平均宿泊日数が 29.2 日であり、日本の約 9 倍に昇った。

そこで本研究では、年間平均宿泊日数が欧米のなかでも突出して多いフランスのリゾート地ではどのように過

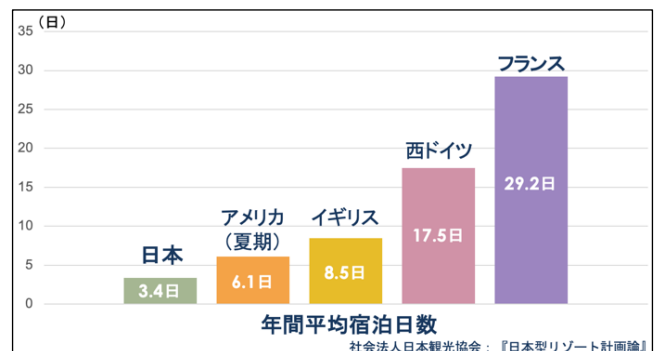


図-1 日本と欧米 4 ヶ国の休暇旅行形態の比較^{2,3)}

ごしているのか、リゾートにおける過ごし方の実態に迫り、リゾート地行動の能動性について考察を行った。

3. 研究対象

本研究の対象は、ここまで述べてきたリゾートの発祥であるとされるヨーロッパかつ年間平均宿泊日数の長いフランスのパリに本社を構え、そのヨーロッパ最大のリゾート施設を展開する株式会社クラブメッドに着目した。

(1) 株式会社クラブメッドの概要

1951 (昭和 26) 年、シェラル・ブリッジとジルベール・トリガノの 2 人によって株式会社地中海クラブが設立された。フランスのパリに本社を構えるヨーロッパ最大のレジャー施設でもあり、

「各地の風土、自然を活かして設備投資を押さえ、創意工夫によるレクリエーションの場の提供」という設立主旨のもと、「滞在型レクリエーションを通じてのクラブ活動」を目的としている。なお、2006 (平成 18) 年には、株式会社地中海クラブから株式会社クラブメッドに社名を変更した^{注2)}。次節以降では、本研究の対象とした 2 施設の現況を示した。

(2) クラブメッド 北海道 トマムの概況

クラブメッド 北海道 トマムでは、夏と冬の 2 シーズンで営業を行っている。夏には北海道の大自然と絶品グルメを楽しめ、冬は極上のパウダースノーを楽しめるリゾートである^{注3)}。

(3) クラブメッド タイ プーケットの概況

クラブメッド タイ プーケットは、豊かな自然に囲まれ、ビーチや繁華街にも近いリゾートで、ショッピングやナイトライフを楽しむことも可能である。敷地内には、6 面のテニスコート、9 ホールのゴルフ用ショートコースも用意されている^{注4)}。

4. 研究の目的と方法

(1) 研究の目的

本研究では、クラブメッドのホームページに掲載されているオンライン旅行代理店「トリップアドバイザー」のロコミを対象とした。そして、3 章で示したクラブメッド 北海道 トマムにおいて日本語で投稿されたロコミとクラブメッド タイ プーケットにおいてフランス語で投稿されたロコミから、「過ごし方」を示したキーワードを抽出した。換言すれば、日本語を母国語とするロコ

ミ (日本人) とフランス語を母国語とするロコミ (フランス人) を比較することによって、リゾート地における過ごし方の実態を明らかにすることを目的とした。

(2) 研究方法

本研究で対象としたトリップアドバイザーへ投稿されたロコミを抽出した期間は、新型コロナウイルス感染症が蔓延する以前の 2017 (平成 29) 年 12 月から 2019 (令和元) 年 12 月とした。その結果、クラブメッド 北海道 トマムは 116 件、クラブメッド タイ プーケットからは 258 件のロコミを抽出することができた (図-2)。

それら抽出したロコミのなかから、「リゾート地行動に関する記述のある投稿」のみを対象としたところ、クラブメッド 北海道 トマムは 114 件、クラブメッド タイ プーケットは 254 件となった。

さらに、そのロコミからリゾートでの過ごし方を示したキーワードを抽出すると、クラブメッド 北海道 トマムで 378 個、クラブメッド タイ プーケットは 1,210 個であった。本研究では、これらのキーワードを対象とし、ルーブリック表を用いて分類を行った (図-2)。

(3) 研究の位置づけ

ここで、リゾート地をテーマとした既往研究を整理しておくとして、まずはわが国で馴染みがなかったリゾート地に対するイメージに着目した研究が挙げられる。堀越ら⁴⁾は、ユーザー側のリゾート地に対するイメージは「非日常的なアメニティーの高い空間に滞在しリラックスする」という単一的な共通イメージが存在していたことを明らかにした。一方、従来の観光地には「にぎやかな」イメージがあるものの、共通性が少なく拡散的で多様であることも示した。小早川ら⁵⁾は、日本において旅行商品として販売されている海外の海浜・海洋リゾートがどのようなイメージでアピールされているかに着目した。その結果、「多彩に充実したスポーツ」「海やビーチの美しさ」「施設依存型スポーツ」「自然依存型スポーツ」「おいしい食事」がリゾートイメージであった。併せて、そのリゾートイメージを 6 つのタイプへ分類も行った。



図-2 本研究で対象としたロコミの抽出方法

また、春名ら⁹⁾はわが国のリゾート開発を行う際の一助として、満足度算出モデルを構築して消費者のアーバンリゾート施設選択に対する意思決定構造を明らかにした。その結果、リゾート開発事業では多様な施設内容の複合化と施設規模の拡大が最も有効と結論づけた。

次に、総合保養地域整備法に関する論文がみられた。浦田ら⁷⁾はリゾート計画に携わるプランナーの意識として、人々のライフスタイルを総合的にコーディネートする資質で魅力的なライフスタイルを提案して欲しいとの見解が述べられた。さらに、前出の法律に対する事後評価を行う論文がみられた。河口ら⁸⁾は総合保養地域整備法に基づいて基本構想が承認された特定地域のなかの重点整備地区に着目して、その特性、事業の進捗と停滞の要因を明らかにした。梅川ら⁹⁾は、総合保養地域整備法が制定されてから 10 年が経ち、その法律が果たした役割と課題を 3 つの期に分けて概観した。今後に向けた展望として、地域の自然や文化、歴史を十分に活用したリゾートづくり、わが国では未成熟なリゾート産業を支援する組織や機関の必要性、「年に少なくとも一回は家族そろって 1 週間程度リゾートで滞在する」ライフスタイルの浸透に向けた需要喚起策も示された。法律が制定されてわずか 10 年余で、現在でも議論されているリゾートの問題点や課題が示されていたのは大変興味深い内容であった。さらに、小谷¹⁰⁾らによっては「リゾート」の定義、あるいはキーワードとして全国紙の社説や専門誌でどのように取り上げられてきたのかを整理したものもあった。

最近では、日本交通公社¹¹⁾によれば、「リゾート整備の本質は単体のスキー場やゴルフ場、テーマパークといった施設を開発、建設することにあるのではなく、ある「ところ」に滞在し、普段と違う「生活」を楽しむことのできる空間を整備することであり、その基本となるのは“滞在・居住施設およびその環境である。”

と述べられるようになってきた。しかしながら、ここで述べられたリゾートにおける普段と違う「生活を楽し

む」ということは一体何なのか、その点については未だ定義されていないといえる。筆者らは、お仕着せで与えられたプログラムを選択するのではなく、能動的に何かをすることがリゾート地における滞在の本質であると考ええる。

ここまでリゾートをテーマとした既往研究をまとめてきたが、リゾート全体をどのような空間を設ければ良いのか、滞在者の行動に着目した具体策などが示された論文は見当たらない現状にあった。

5. リゾート地行動に対するルーブリック表の適用

(1) ルーブリックとは

文部科学省¹²⁾によれば、ルーブリックとは「目標に準拠した評価」のための「基準」つくりの方法論をいう。

そして、その評価を行う場合にはルーブリック表を用いることが多い。そのルーブリック表の縦軸には「学生が何を学習するのか」を示す評価規準、表の横軸には「学生が学習到達しているレベル」を示す具体的な評価基準をマトリクス形式で示す評価指標である(図-3)。

本研究では、ルーブリック表にリゾート地行動をあてはめ、その特徴を考察した。

(2) 評価規準(ルーブリック表の縦軸)

本研究で抽出したリゾートでの過ごし方を図-2で示したロコミのキーワードをもとに、評価規準に該当する縦軸は「人との交流」「自然環境を利用した施設」「施設」「観光資源」「その他」の5つを設定した(図-3)。

(3) 評価基準(ルーブリック表の横軸)

本研究で用いたルーブリック表は、面接で導入されることもある。その際、横軸に該当する評価基準は「コンピテンシー・レベル」が設定される場合がある¹¹⁾。これは、被面接者が行った過去の行動事実に対して、その行動がいかにかに成果へつながる行動であったのか、その判断を5段階のレベルで判断するものである。その内訳をみると、「レベル5」はまったく新たな周囲にとっても意味ある状況を作り出す行動、「レベル4」は独自の効果的工夫を加えた行動、状況を変化させよう、打破しようという行動、「レベル3」は明確な意図や判断に基づく行動、明確な理由のもと選択した行動、「レベル2」はやるべきことをやるべきときにやった行動、「レベル1」は部分的・断片的行動という5段階である。

そこで、本研究でも上述した「コンピテンシー・レベル」を参考に、横軸の評価基準を設定した(図-3)。その内訳として、「能動行動①」は自らの選択で何もし

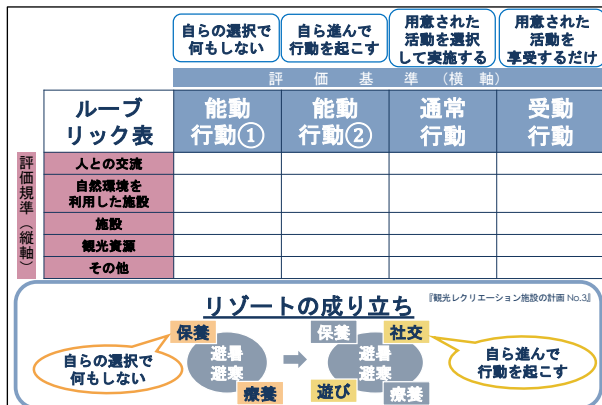


図-3 本研究で設定したルーブリック表とリゾートの概念

表-1 ルーブリック表にあてはめた2施設のリゾート地行動に関する口コミ集計結果

評価基準	施設名	能動行動①		能動行動②		通常行動		受動行動	
		トママ	プーケット	トママ	プーケット	トママ	プーケット	トママ	プーケット
評価 規 準	人との交流	0	0	106	288	24	36	43	49
	自然環境を利用した施設	0	71	0	0	23	40	2	0
	施設	0	6	0	9	57	294	31	57
	観光資源	0	0	0	0	43	219	15	46
	その他	8	13	4	1	22	81	0	0
	合計	8	90	110	298	169	670	91	152

ない、「能動行動②」は自ら進んで行動を起こす、「通常行動」は用意された活動を選択して実施する、「受動行動」は用意された活動を享受するだけの4段階を設定した(図-3)。

なお、自ら進んで行動を起こす「能動行動②」よりも自らの選択で何もしない「能動行動①」の重要度を高くしている。その理由は、図-3の下部で示したリゾートの根本的な概念である「保養」や「療養」は「何もしない」行動に近いことから、このように設定した。

6. 投稿された口コミにみるリゾート地行動の分類

表-1には、リゾート地の過ごし方を示したキーワードをルーブリック表にまとめた。その結果、北海道トママよりもタイプーケットの方が自ら選んで何もしない「能動行動①」が多かった。自ら進んで行動を起こす「能動行動②」では、クラブメッド北海道トママとクラブメッドタイプーケットの両方で人との交流を伴う行動が多かった。これは後述するG.O.との関係が過ごし方に影響を与えていたとみられる。用意された活動を選択して実施する「通常行動」では、クラブメッド北海道トママとクラブメッドタイプーケットの両方で、評価規準として設定した5項目すべてに該当するリゾートでの過ごし方がみられた。

(1) 「能動行動①」に分類されたリゾート地行動

「能動行動①」は、自らの選択で何もしないものが該当した。表-2をみると、クラブメッド北海道トママよりもクラブメッドタイプーケットの方が行動の種類が多く、利用者の好む場所や時間を自由に選択して過ごしていることが明らかとなった。

クラブメッド北海道トママの口コミに目を向けると、「のんびり、何もしない贅沢を味わえる場所です」とあり、「のんびり」や「何もしない」といった記述がみられた。一方のクラブメッドタイプーケットは、「ビーチは素晴らしく、壮大な夕日を見に行けます。大人用プールは小さめですが、庭園とその植栽は壮大で

表-2 「能動行動①」に該当したリゾート地行動のキーワード一覧

	能動行動① (括弧内の数字はリゾート地での過ごし方を示したキーワードの個数)	
	北海道トママ	タイプーケット
人との交流	該当なし (0)	該当なし (0)
自然環境を利用した施設	該当なし (0)	<ul style="list-style-type: none"> ・庭園 (29) ・パラソル/ ビーチマット (17) ・デッキチェア (11) ・公園 (9) ・夕日を眺める (2) ・海/波を眺める (2) ・日光浴 (1)
施設	該当なし (0)	・プールサイド (6)
観光資源	該当なし (0)	該当なし (0)
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ゆったり過ごす (2) ・のんびり過ごす (2) ・リラックス (2) ・何もしない (1) ・くつろぐ (1) 	<ul style="list-style-type: none"> ・リラックス (8) ・静かに休む (2) ・怠惰 (2) ・リフレッシュ (1)

表-3 「能動行動②」に該当したリゾート地行動のキーワード一覧

	能動行動② (括弧内の数字はリゾート地での過ごし方を示したキーワードの個数)	
	北海道トママ	タイプーケット
人との交流	<ul style="list-style-type: none"> ・G.O.とコミュニ ケーション (82) ・バー (14) ・ショーに参加する (6) ・客同士のコミュニ ケーション (3) ・バーベキュー (1) 	<ul style="list-style-type: none"> ・G.O.とコミュニ ケーション (214) ・バー (65) ・客同士のコミュ ニケーション (7) ・ラウンジ (2)
自然環境を利用した施設	該当なし (0)	該当なし (0)
施設	該当なし (0)	<ul style="list-style-type: none"> ・Zen スペース (7) ・ビリヤード (1) ・ダーツ (1)
観光資源	該当なし (0)	該当なし (0)
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・自由に行動する (2) ・読書 (1) ・ドミノ (1) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ギター (1)

す。」

と書かれており、「夕日を眺める」や「庭園」など、北海道トマムよりもタイプケットの方が具体的な場所や時間を示した記述がみられた。

(2) 「能動行動②」に分類されたリゾート地行動

自主的に行動を起こす「能動行動②」では、研究対象とした2施設とも「G.O.とコミュニケーション」を図る行動が特に多かった。G.O.とは Gentle Organizer の略称であり、クラブメッドのスタッフのことである。そのG.O.について、クラブメッド北海道トマムの口コミでは、「G.O.の方々はすごいフレンドリーで必ず挨拶をしてくれますし一緒に食事をしたりお酒を飲んだりこんなことってあるんだ...！って驚きの連続でした。(中略)一般のお客さんともG.O.の方々とも沢山話せて楽しかったです。」

とあり、G.O.と一緒に食事をしながら交流したことだけではなく、当該のG.O.を介した他の滞在者と交流を行った過ごし方も記されていた。

もう一方のクラブメッドタイプケットの口コミでは、「そしてフレンドリーなパトリス！ジェニーの笑顔に感謝します。(中略)また、非常に存在感がある笑顔のケビンにも感謝します！(中略)ステファノの素晴らしいコーヒーとリンとキムの笑顔で喜ばせるバーの雰囲気。小旅行中には息を呑むような風景に出逢えて、エリックとヴェラの賢明なアドバイスありがとう！」このように、G.O.の名前が口コミで列挙されており、そのG.O.と滞在者の間に深い関わりが発生していることがわかった。

研究対象とした口コミのなかで、G.O.との交流について記述されていたのは、表-3 で示したようにクラブメッド北海道トマムでは82件/114件(約71%)、クラブメッドタイプケットが214件/254件(約84%)であった。研究対象とした2施設では、7割以上の利用者がG.O.に対する口コミを残していた。

(3) 「通常行動」に分類されたリゾート地行動

用意された活動を選択して実施する「通常行動」を分類した。表-4 で示したクラブメッド北海道トマムは34種類、クラブメッドタイプケットは36種類の多様なアクティビティが研究対象とした2施設のリゾート地で用意されていた。

クラブメッド北海道トマムの口コミを示すと、「食事が美味しかった。ビュッフェですが、各コーナーの食べ物がどれも外れがありません。(中略)スポーツアクティビティも充実、テニスコートは全米オープンテニスのそれと同じサーフェスです。ほかではなか

なか体験出来ない空中ブランコ、ぜひ、挑戦してください。」

とあり、スポーツや空中ブランコなどの多彩なアクティ

表4 「通常行動」に該当したリゾート地行動のキーワード一覧

通常行動 (括弧内の数字はリゾート地での過ごし方を示したキーワードの個数)		
	北海道トマム	タイプケット
人との交流	<ul style="list-style-type: none"> スキー/スノーボード レッスン (4) イベントに参加 (4) ヨガ (3) パーティー (3) 料理教室 (3) スクール/レッスン (2) サーカスレッスン (2) 餅つき大会 (1) ダンス (1) カクテルづくり体験 (1) 	<ul style="list-style-type: none"> ヨガ (9) ムエタイ体験 (7) パーティ (6) ダンス/ズンバ (6) クレイジーサイン (4) 料理教室 (2) スポーツ大会 (1) スクール (1)
自然環境を利用した施設	<ul style="list-style-type: none"> マウンテンバイク (9) スキー/スノーボード (8) ハイキング (2) ラフティング (1) サイクリング (1) マウンテンスポーツ (1) ツアーに参加する (1) 	<ul style="list-style-type: none"> シュノーケリング (17) スキューバダイビング (15) アクアフィットネス (3) ビーチバレー (3) カヌー (2)
施設	<ul style="list-style-type: none"> レストラン / ビュッフェ (19) アーチェリー (12) 空中ブランコ (10) テニス (9) ジム/筋トレ (4) フェンシング (1) サッカー (1) 卓球 (1) 	<ul style="list-style-type: none"> レストラン / ビュッフェ (149) プール (40) Zen プール (27) ゴルフ (19) 空中ブランコ (17) テニス (16) アーチェリー (13) サッカー (4) ジム (4) 水泳 (2) ペタンク (2) 卓球 (1)
観光資源	<ul style="list-style-type: none"> ミナミナビーチ / プール (24) 木林の湯/大浴場 (18) アイスビレッジ (1) 	<ul style="list-style-type: none"> ビーチ (119) エクスカージョン (62) マーケット/市場 (24) Elephant Care Adventure (8) パトン/パトンマーケット (5) トゥクトゥク (1)
その他	<ul style="list-style-type: none"> アクティビティ (11) フィットネス (6) スポーツ (2) ジャグリング (1) ストレッチ (1) エクスカージョン (1) 	<ul style="list-style-type: none"> スポーツ (29) アクティビティ (24) エンターテインメント (17) フィットネス (6) アニメーション (5)

ビティを紹介していた。

他方、クラブメッドタイプークットのロコミは、「海に簡単にアクセスでき、多くのアジア料理とコンチネンタル料理を楽しめるおいしい料理、大きなスイミングプール、緑豊かな環境、たくさんのアクティビティ、とても素敵な G.O.がいますが、部屋は平均以上です。」

とあり、クラブメッドタイプークットは、クラブメッド北海道トマムと同様、具体的なアクティビティや料理（食べること）に関する記述が多かった。また、タイプークットではムエタイ体験に加え、象に餌をあげたり乗ったりすることができる体験型エクスカッションが用意され、それらはタイを感じられるアクティビティやエクスカッションであることもわかった。

ここまで述べてきたようなアクティビティを実施するという観点では、次節で述べる「受動行動」に適用されるが、本研究では「通常行動」として分類を行った。その理由として、“多様な”選択肢のなかから“選んで”参加する判断が含まれるため、これらのアクティビティを受動行動よりも能動的な「通常行動」に分類した。

(4) 「受動行動」に分類されたリゾート地行動

「受動行動」とは、用意された活動を享受するだけのものが該当した。表-5 で示した観光資源に着目すると、クラブメッドタイプークットの方が観光資源の記述が多かった。そのことから、クラブメッドタイプークットの方がクラブメッド北海道トマムよりも地域との関わりが深いと考えられる。そのクラブメッドタイプークットのロコミをみても、

「プークットの旧市街、大仏のある寺院、タイ料理の多様なフルコースを楽しめるレストランの Blue Elephant Phuket, 注目すべきサーカスショーを含む多くのアクティビティがあります。」

とあり、具体的な観光資源名が列挙されていた。

次に、クラブメッド北海道トマムのロコミに目を移すと、

「滞在中に星野リゾートのミナミナビーチや雲海テラスに行けるのも楽しい。子供達が小さい頃、マレーシアのクラブメッドで毎年会っていた Mika がサーカス G.O. となっていて、まさかの再会。素晴らしいショーを堪能しました。」

とあり、表-5 で列記した観光資源名が示されていた。

研究対象とした 2 施設に共通していたものとして、受動行動に含めた「ショー／サーカスを観覧する」や「託児」に関する記述があった。前出のクラブメッド北海道トマムのロコミのように「お世話になった G.O. がショーに出演するから」や「自分の子供がショーに出るから観覧する」といった、「人との交流」によって生まれ

表-5 「受動行動」に該当した
リゾート地行動のキーワード一覧

受 動 行 動		
(括弧内の数字はリゾート地での過ごし方を示したキーワードの個数)		
	北海道トマム	タイプークット
人との交流	・ショー／サーカスを観覧する (43)	・ショー／サーカスを観覧する (47) ・サプライズ (2)
自然環境を利用した施設	・打ち上げ花火を見る (2)	該当なし (0)
施設	・託児 (29) ・マッサージチェア (2)	・託児 (44) ・スパ (12) ・音楽 (1)
観光資源	・雲海テラス／ゴンドラ (13) ・ラベンダーファーム (1) ・青い池 (1)	・ピピ島 (13) ・パンガー湾 (12) ・寺院／大仏 (9) ・マッサージ屋 (6) ・船／船旅 (4) ・ジェームズボンド島 (2)
その他	該当なし (0)	該当なし (0)

た行動の場合もあり、一概に「受動」と言い切れない行動もあった。

7. まとめ

本研究では、リゾートの発祥であるとされるヨーロッパのフランスに本社を構える株式会社クラブメッドが運営する北海道トマムとタイプークットの 2 施設について書かれたロコミに注目し、そこでの過ごし方を示すキーワードを抽出した。そして、それらのキーワードについて、ループリック表を用いて分類を行った。

その結果、ループリック表を用いたことにより、リゾート地においては能動的、受動的な行動を行っているのかは、大きく 2 つの特徴がみえてきた。

1 点目は、クラブメッド北海道トマムよりもクラブメッドタイプークットの方が「自ら選んで何もしない」行動の種類が多かった。2 点目は、お世話になった G.O. へのメッセージが多いことから、G.O. との関係が過ごし方に影響を与えていた。これらの行動はそれぞれ、リゾートが誕生した時の「保養」や「社交の場」の役割に近い行動であるといえる。

また、それらの行動は、ループリック表の縦軸に該当する評価規準の項目の「人との交流」と「自然環境を利用した施設」に分類されることが多く、かつループリック表の横軸で設定した評価基準のなかの能動的な行動に当てはまりやすいことがわかった (表-1)。

8. 考察

7章で示したように、ルーブリック表の縦軸で設定した評価規準のなかで、「人との交流」と「自然環境を利用した施設」に分類される過ごし方は、横軸の評価基準では能動的な行動に当てはまりやすい。リゾート地の発展には、地域住民や滞在者同士の交流や地域の自然を楽しむための装置が必要であると考えられる。さらに、これから日本のリゾート地が発展していくためには、「住民や滞在者同士の交流を生み出したり、地域の自然を楽しんだりするための装置」や「自ら好きな行動を選択できる」ような、能動行動を引き出すための空間や施設整備のマネジメントが必要である。

本研究では、筆者らがトリップアドバイザーの口コミから客観的にリゾート地行動を判断した。しかし、行動者自身はその行動を能動的と感知することが重要であると思われる。その違いについては今後考察していきたい。

NOTES

- 注1) Hotels.com による調査によれば、2013年の各国休暇合計日数がまとめられている。研究対象としたフランスの有給休暇日数は25日に対し、日本は10日であった。いずれにせよ、日本よりもフランスの方が休暇を取得している日数は多いものと思われる。
- 注2) Travel vision : 地中海クラブ, 4月から「クラブメッド」に, 社名とブランド名を統一, <https://www.travelvision.jp/news/detail.php?id=23460>, 日本語, 2022.9.26 閲覧。
- 注3) TripAdvisor : 「クラブメッド北海道トマム」ページ, https://www.tripadvisor.jp/Hotel_Review-g1120868-d13101783-Reviews-or405-Club_Med_Tomamu_HokkaidoShimukappu_mura_Yufutsu_gun_Hokkaido.html, 日本語, 2022.9.15 閲覧。
- 注4) TripAdvisor : 「クラブメッドタイプークット」ページ, https://www.tripadvisor.jp/Hotel_Review-g1215780-d595720-Reviews-or1110-Club_Med_Phuket-Karon_Phuket.html, フランス語, 2022.12.19 閲覧。
- 注5) 文部科学省 : 濱名委員説明資料, https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo4/015/attach/1314260.htm, 日本語, 2022.9.26 閲覧。

REFERENCES

- 財団法人日本交通公社 : 観光読本 (第 2 版), pp.125-126, 東洋経済新報社, 2009. [Japan Travel Bureau Foundation.: *Kankou dokuhon*, pp.125-126, toyo Keizai Inc, 2009.]
- 社団法人日本観光協会 : 観光レクリエーション施設の計画, pp.172-176, 社会法人日本観光協会, 1975. [Japan Tourism Association.: *Kankou recreation shisetu no keikaku*, pp. 172-176, Japan Tourism Association, 1975.]
- 社団法人日本観光協会 : 日本型リゾート計画論—滞在型観光の整備・運営に関する調査研究報告書—, pp.24-25, 社団法人日本観光協会, 1990. [Japan Tourism Association: *Nihongata resort keikaku-ron*, Japan Tourism Association, pp. 24-25, 1990.]
- 堀越猛, 渡辺貴介, 天野光一 : 首都圏ユーザーのリゾートイメージに関する研究, 都市計画論文集, 25 巻, pp.235-240, 1990. [Horigome, T. Watanabe, T. and Amano, K.: A Study on Resort Image by User sin Metropolitan Tokyo, *Journal of the City Planning Institute of Japan*, Vol. 25, pp. 235-240, 1990.]
- 小早川智明, 渡辺貴介, 天野光一 : アピールポイントからみた海外の海浜・海洋リゾートのイメージ構造に関する研究, 都市計画論文集, 25 巻, pp. 307-312, 1990. [Kobayakawa, T. Watanabe, T. and Amano, K.: A Study on Appealing Points of Overseas Maritime Resorts, *Journal of the City Planning Institute of Japan*, Vol. 25, pp. 307-312, 1990.]
- 春名攻, 蜂谷智樹, 中田隆史 : アーバンリゾート施設選択行動のモデル化に関する研究, 土木情報システム論文集, 4 巻, pp. 33-40, 1995. [Haruna, M. Hachiya, T. and Nakata, T.: A Study on Choice Behaviour Modeling of Urban Resort Facilities, *Journal of Civil Engineering Information Processing System*, Vol. 4, pp. 33-40, 1995.]
- 浦田啓充, 黛卓郎 : 国民のライフスタイルとリゾート空間, 造園雑誌, 52 巻 4 号, pp. 280-286, 1988. [Urata, H. and Mayuzumi, T.: Kokumin no lifestyle to resort kukan, *Journal of the Japanese Institute of Landscape Architects*, Vol. 52, Issue 4, pp.280-286, 1988.]
- 河口飛路志, 渡辺貴介, 十代田朗 : 総合保養地域整備法に基づく重点整備地区プランの特性に関する総括的分析, 都市計画論文集, 29 巻, pp.349-354, 1994. [Kawaguchi, H. Watanabe, T. and Soshiroda, A.: A Study on the Features of all of Intensive Development Districts Approved by the Law for Development of Comprehensive Resort Areas, *Journal of the City Planning Institute of Japan*, Vol. 29, pp. 349-354, 1994.]
- 梅川智也, 原重一 : 総合保養地域整備法 (リゾート法) の成立とその後の展開—法施行 10 年を振り返って—, 都市計画論文集, 32 巻, pp. 265-270, 1997. [Umekawa, T. and Hara, J.: Approval of the Comprehensive Resort Area Development Act and the following Changes -Past 10 Years since the Approval of the Act-, *Journal of the City Planning Institute of Japan*, Vol.32, pp. 265-270, 1997.]
- 小谷拓也, 十代田朗, 羽生冬佳 : 総合保養地域整備法 (リゾート法) 制定以降のわが国におけるリゾートに関する言説の変遷, 都市計画論文集, 37 巻, pp. 925-930, 2002. [Kotani, T. and Soshiroda, A. and Hanyu, F.: The Discourses Analysis about Resort after the Enactment of "the Comprehensive Resort area Development Act", *Journal of the City Planning Institute of Japan*, Vol. 37, pp. 925-930, 2002.]
- 川上真史, 齋藤亮三 : コンピテンシー面接マニュアル, pp.102-125, 弘文堂, 2006. [Kawakami, S. and Saito, R.: *Competency based interview manual*, pp. 110-119, koubundou, 1996.]